

元旦礼拝

現場の灯台（マタイ 5:13-16）

未信者は元旦に神社に行き、自分の夢をかなえるために祈りますが、私たちは、自分の夢の実現ではなく、みことばによってすでに結論からスタートしましょう。聖書 66 巻の結論は、信者の私はイエス様によって、幸せな者だという結論です。条件、状況、環境で左右されない幸せに、定義を取り替えて、どんなことがあっても、**イエスゆえに私は幸せだ**と確認しましょう。

そして、**この世はイエスがなく不幸なところ**です。先進国であれ、途上国であれ、イエスがないなら、どんなにもがいてあばれても、罪に捕えられています。その罪は、神様ご自身が十字架でいのちを捨ててくださらないといけなくらい、おそろしい罪です。すべての人が、この罪に捕えられているので、幸せではありません。しかし、サタンが作った偽物の幸せにだまされて、一生、さまよい、溺れているのが、この世です。まことの幸せがないので、霊的、精神的、肉体的、人生が苦しむしかないので、なにかで隠しています。

ですから、みことばの結論は、**信者の私はこの世の光であり、世に光として遣わされている者だ**ということです。信者はだれひとり例外ありません。イエス様が、今日の本文で言われたように、世の塩、世界の光です。最後の晩餐でも、暗やみに捕えられている世を助けるように遣わすと言われました（ヨハネ 17:18）。このように世とは次元のちがう（聖なる）理由がある存在です。信者はどの現場でも、その現場の主人公として遣わされているので、その人中心に現場は動きます。そうなることを信じるようにしましょう。この結論に立ってスタートしましょう。

2019 年は、「自分は自分の現場で灯台とし

マタイ 5: 13-16 現場の灯台

なるほど/人々は新年を迎え夢と抱負を語るけど、信者は「私はイエス様で幸せであり、この世はイエス様がなく不幸である」という御言葉の結論をスタートにして、感謝と共に「信者である私は世に光として遣わされた者だ」という聖なるプライドをみち、違う夢を見る者である。ならば/今年、現場の灯台として立っていようと決心しよう。主人公の意識を持ち、まず光を味わい、神のなさることを期待し楽しみつつ待とう。

て立つ」とみことばに従って、夢見て決心しましょう。灯台は暗やみで安全なところに導く、なくてはならないものです。なにもしなくても良くて、存在が世の光であるという意識を持ちましょう。灯台である条件は、まことの光であるイエス様が私の中におられるということだけです。イエス様が光です。

その意識を持てるようにするために、聖餐の告白、信仰の宣言を黙想しましょう。そして、なにかをするのではなく、普段の生活をしながら、まず、自分の中で光が輝くように、自分で味わいましょう。そして、現場で祈りの時を持ちましょう。1 日一回以上は、光の祝福にのめり込む時を持ちましょう。そうすれば、なにも怖れず、うらやましくなく、問題に引っかかることもなくなります。そして、聖書で言われるように愛のいましめを実践するしかなくなります。譲るようになり、裁くことなく、神様の時刻表を待ちます。未信者を見る目も、救いの対象だと見るようになります。必ず現場で神様がなさるわざがあるので、期待して待ちましょう。

そのようにしていると、福音が必要な人が見えてくるので、祈るようになります。祈っていると、その人が悩みを打ち明ける時がきます。そのときにイエス様の話しをすれば良いのです。自分でできない場合は、手伝ってもらう人をいまから決めておきましょう。そのようにして、タラップン、班長ができていきます。これが、2019 年に備えられている祝福です。現場の灯台として具体的に、毎日意識を持って自分の中で光が輝くように、礼拝を大切に、みことば、福音が胸に刻まれるようにしましょう。祝福の 1 年となることを祈ります。

(<http://jremnant.com> に音声と動画が出ています)